

令和5年度 「学校評価結果一覧表」

項 目		児童	保護者	教職員	平均
		R5	R5	R5	R5
1	学校の教育方針に共感でき、教育活動全般に満足している。	3.3	3.3	3.6	3.4
2	学校は、特色ある教育活動（学力の向上・小中連携・開かれた学校）を行っている。	3.2	3.1	3.4	3.2
3	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	3.5	3.0	3.7	3.4
4	学校は、校内外問わず生活面の指導をきちんと行っている。	3.5	3.1	3.4	3.3
5	学校は、学習内容の定着を図るための課題（宿題・自主学習）を出している。	3.5	3.4	3.6	3.5
6	教職員は、子どもをよく理解し、個に応じたわかりやすい授業を行っている。	3.6	3.2	3.4	3.4
7	教職員は、努力を認め、子どもの能力に応じた対応をし、伸ばそうと努力している。	3.6	3.3	3.6	3.5
8	教職員は、子どもの悩みや相談ごとに親身になって応じている。	3.6	3.2	3.6	3.5
9	教職員は、家庭への連絡や報告をきめ細やかにしている。	/	3.3	3.4	3.4
10	子どもたちは、好ましい友達関係があり、楽しく登校している。	3.4	3.4	3.3	3.4
11	子どもたちは、誰にでも気持ちのよいあいさつや言葉遣いができている。	3.3	2.9	2.9	3.0
12	子どもたちは、健康に気がけている。（歯磨き・手洗い・うがい・マスク着用など）	3.5	3.2	3.1	3.3
13	学校は、清掃が行き届き、学習するのにふさわしい環境になっている。	3.6	3.3	3.1	3.3
14	学校は、校内の危険個所への配慮があり、安全に生活を送ることができる環境を整えている。	3.5	3.3	3.5	3.4
15	学校では、命や人権を大切に教育に積極的に取り組んでいる。	3.7	3.3	3.8	3.6
16	学校は、ホームページや学校だより、学年だより等で学校の様子をわかりやすく伝えている。	/	3.3	3.8	3.6
17	学校は、学校行事等で、保護者や地域の人たちが、来校する機会を適切に設けている。	/	3.4	3.9	3.7
18	学校は、地域の行事を理解し、協力的である。	/	3.3	3.8	3.6
19	学校は地域と連携をとり、校区内の安全や交通事故防止に配慮している。	/	3.4	3.9	3.7
20	学校は、様々な機会を通して、小中連携の取組の周知に努めている。	/	3.2	3.6	3.4

令和5年度 広田小学校 学校評価の結果について

学校評価へのご協力ありがとうございました。

回答いただいた結果及びご意見ご感想につきましては、今後もよきご助言として受け止め、学校経営及び子供たちへの指導に生かしていきます。

まずは、上ページの表「学校評価結果一覧」の数値結果についての考察です。



○ 概ね「学校の教育方針及び教育活動全般」へご理解いただいていること

項目1では、保護者様の評価において、昨年度同様高い評価をいただきました。

本校の学校教育目標は「本物の笑顔」かがやく広田小です。「本物の笑顔」の意図するところは、「自己実現」「他者貢献」です。今後も、充実した学校生活を通して、本物の笑顔が輝く子どもたちを育てていきます。

○ 全体的に児童からの評価は、高い数値であること

背景として、昨年度から共通実践を図っている「広田ベーシック」（はきものそろえ あいさつ・返事 始業前の黙想）が定着、浸透していることに加え、本年度「学校にわくわくを取り戻す！」を合い言葉に進めてきた「学級力」を大切にして、児童の「自尊心」「集団の肯定感」を高める取組が、子どもたちの学びへの当事者意識を高め、学校生活の充実に繋がっていることが伺えます。

小学校期は、人生の土台（ベーシック）づくりです。次年度も、広田ベーシックは、子どもたちの将来へとつながる揺るぎない土台であると捉え、粘り強く、そして、丁寧に指導していきます。そして、子どもたちの自己実現のための重要な要素である、更なる学力向上へとつなげていきます。

○ 運動会における評価も概ね高い評価であった。

本年度も、「『ゆずり合い』と『思いやり』の広田小ホームグラウンド運動会」を合言葉として、本校運動場において、運動会を開催することができました。

5年生のリーダーシップが大いに発揮され、保護者の皆様のご理解と温かなご協力のもと、最大の学校行事を自校の運動場で開催することができました。感謝しております。

来年度も、本年度の取組をベースとして、更に工夫・改善を加え実施して参ります。

● 他と比べて、評価が低かった項目として「あいさつ」が挙げられること。

昨年度に比べ、改善しているものの、「あいさつ」の項目が他の評価と比べて低かったことが、本年度の反省点であり、今後の課題として受け止めています。

「あいさつ」については、今後も改善に向け、取り組んで参ります。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

次に、保護者の皆様からの記述内容として、いただきましたご意見につきまして、主な内容について、内容ごとに整理して回答させていただきます。

小中連携について

「6年生を小学校校舎に戻すことはできないのか」「6年生を小学校校舎で学べるように検討して欲しい」「行事は中学生とする必要があるのか」等のご意見をいただきました。

<回答>

本校においても、年度末が近づくとつれて、5年生が終わり、6年生を中学校の校舎へ送り出すことを寂しく感じおります。

一方で、小中一貫型教育は、市議会を通った教育行政の施策ですので、学校が独自に判断できるものではないという側面があります。

そこで、本校では、小中一貫型教育のよさを最大限に生かし、広田小学校オリジナルの教育活動の模索を続け、子どもたち一人一人の成長へとつなげていきたいと考えております。

具体的な、小中一貫型教育のよさとしていたしましては、

- ①中学校教師の乗り入れ授業によって、より専門的な学びを行うことができます。
- ②中学校の環境や行事を6年生から体験することで、中学校へと滑らかに接続されます。
- ③5年生が、小学校校舎で最高学年として過ごすことによって、自立的に成長します。

本年度からは、さらに、中学生がテーマを設け、6年生に対してプレゼンテーションをする機会を設けるなど、連携を深めています。

次年度は、小学生が中学生に対してプレゼンを行う機会を設けるなど、新しい挑戦も考えています。また、5年生で小学校の貢献活動を、地域への貢献活動へと広げていくことも検討中です。

1月22日には、5年生を6年生校舎に招いての6年生による説明会を実施しました。

6年生校舎で学校生活を送る5年生へ向けて、6年生が、自分たちだけでプレゼンをつくり、堂々と中学校校舎における自分たちの頑張りを、誇りをもって伝えました。

6年生は大きな達成感を味わい、5年生は中学校校舎での生活に、大きな希望を感じた機会となりました。

来年度も、広田小学校では、小中一貫型教育のよさを最大限に生かし、子どもたちの成長につながる広田小学校オリジナルの教育活動の模索を続けてまいります。

運動会について

「広田小ホームグラウンド運動会」につきましては、前述しておりますように、概ね賛同のご意見をいただきました。その中で、一部、「東部グラウンドや中学校のグラウンドで実施できないか」「保護者席の運用を検討できないか」等のご意見をいただきました。

<回答>

まずは、本年度も、保護者の皆様のご理解とご協力のもと、最大の学校行事を自校の運動場で開催することができましたことに、心より感謝しております。

本校が、「広田小ホームグラウンド運動会」を開催するにあたっては、以下の3点を大切にして実施しております。

- ①練習した運動場で本番を開催することで、児童が安心して練習の成果を発揮することができる環境を整える。
- ②長距離の徒歩移動や児童椅子がないことによる長時間の体操座り及び熱中症のリスク等の児童の健康的・体力的負担を最小限にする。
- ③移動の時間を含めた教育活動への影響を最小限に抑え、子どもたちにとってより効果的な学校教育活動を実践する。

来年度も、様々なご意見を踏まえ、本年度の取組をベースとして、更に工夫・改善を加え実施して参ります。保護者の皆様の温かなご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

児童の登校時の見守り（旗当番）について

児童の登下校の見守りについて、「旗当番の負担が大きい」、「地区により負担が違う」等のご意見等をいただきました。

<回答>

広田小学校は、大規模校、且つ大きな幹線道路が存在する校区の中、事件事故発生件数〇を保ちながら子どもたちが安心して登校できております。ひとえに、保護者の皆様、広田小子ども見守り隊をはじめとした地域の皆様のおかげであると感じております。心よりお礼申し上げます。

一方で、保護者の皆様におかれましては、旗当番等の負担が年々増していることを学校としても把握しております。

そこで、学校としましては、学校評議員会や学校支援会議、地区部会等を開催し、保護者の皆様、地域の皆様と課題を共有し協議を進め、「持続可能な見守り」のお話をさせていただいているところです。

具体的には、児童の安全を第一に考え、優先事項を明確にした、「持続可能な見守り」として、次のような例をお話させていただいております。

- ①危険箇所が4か所ある場合、地区で協議して、特に危険な2カ所で立哨当番を行う。
- ②毎日の立哨当番が難しい場合、地区で協議して、週の始めと終わりの2日で行う。

あくまで例です。実際には、各地区で丁寧に協議し、決定していただくことが大切です。

今後も学校としましては、学校の役割である日々の「安全指導」を丁寧に行ってまいります。日々の子どもたちの安全・安心な登下校と笑顔のため、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

児童の登下校時のあいさつについて

ここは、評価のポイントがもっとも低かった項目です。

校内での児童のあいさつは、大変向上しています。本年度は、子どもたちの主体性・自治力を中心とした特別活動を基軸として、代表委員会における話合いで決定したことをもとに、各委員会・学級が連携したあいさつ運動を展開することができました。子どもたちは、元気なあいさつ、静かに会釈、立ち止まってあいさつなど、個々に自分の目標を掲げ、取り組んでいます。来校者からも、お褒めの言葉を頂くことが増え、嬉しく、そして、誇らしく感じているところです。本校では、こうした子どもたちの頑張りを、認め、褒め、喜ぶことを通して、やる気を高め、あいさつの習慣化を図っていきます。

課題は、汎用的な力の育成、地域の中での実践であると考えています。

学校においては、今後も、広田ベーシックに掲げる「あいさつの向上」への取組を継続していきます。そして、まずは一番身近な大人である我々教職員が、元気のよいあいさつの手本となります。

地域においても、広田地区には、見守り隊の皆様をはじめ、子どもたちのお手本となってくださる皆様がたくさんおられます。

『あいさつを自分からする身近な大人の姿こそが、子どもたちの大切なお手本』です。なぜなら、あいさつを自分からする大人が身近にいれば、自分からあいさつをする大人になると考えているからです。

今後も、温かなつながりと温かなあいさつの声がこだまする広田地区を目指し、保護者、地域の皆様とともに、気持ちのよいあいさつの推進を行ってまいります。

子供たちの人間関係のトラブル（いじめを含む）について

「いじめは起こっていますか。」「困っている子や悩んでいる子がいたら、しっかり見てあげてほしい。」というご質問・ご意見等をいただきました。

<回答>

まず、本校の「いじめ」に対する考えを申します。

本校においては、いじめを「ない」と捉えることはいたしません。

子どもたちは、集団の中で生活し、たくさんの友達と関わり合いながら学校生活を過ごしています。集団生活の中では、トラブルはつきものです。

その中で、本校職員は、「いじめはどこにでも起こりえる」と考え、子どもたちの日頃の様子・交友関係について、丁寧に心を配り、小さなトラブルであっても種を掘り起こしながら指導を行っております。

今後も、いじめは「ない」ではなく、「どこでも起こり得る」と考え、対応してまいります。

まずは、温かい学級、子どもたち同士の豊かな人間関係をつくるために、教師が言葉を大切にし、子どもたちの心に寄り添い、温かい言葉をつかいます。温かい言葉で、子どもたちを包む教育、本物の笑顔を目指す教育を推進していきます。

そして、特別活動を基軸として、「学級」を大切にし、学級の課題に主体的に目を向け、「話し合い」を通して、学級力を高め、優しく強い、そして、温かな風土の学級づくりを進め、子どもたち一人一人の居場所作りを大切にまいります。

おわりに

以上の意見の他にも、本校教育活動へのご賛同や本校職員への感謝やねぎらいのお言葉、地域における活動が増えたことへの称賛の声など、たくさんのご意見をいただきました。

今後も、広田小学校は、保護者や地域の皆様の声を生かしながら、学校教育目標「本物の笑顔かがやく広田小」の実現へ向けて、さらなる教育活動の充実を図ってまいります。

今後とも、よろしく願いいたします。



学校、家庭、地域の環境、大人の姿、言葉は「薫習」

子どもたちは、学校や家庭、地域の風を感じて育ちます。通学路、校庭に可憐に咲き、頑張っている花を見て育ちます。あいさつをする大人に囲まれて、あいさつの「心」を知ります。はきものをそろえる人を見て、物事を整えることの大切さを知ります。学校、家庭、地域の教育文化は、とても大切です。そして、これからも、それが子どもたちを包む風となり「薫習」となっていきます。

広田小学校は、今後も保護者、地域の皆様とともに、帆を張り、風を受け、「本物の笑顔」かがやく未来に向かって、進んで参ります。